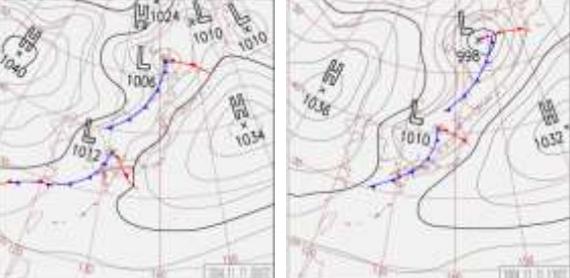


# 2004年 11月11日～12日 日本海低気圧

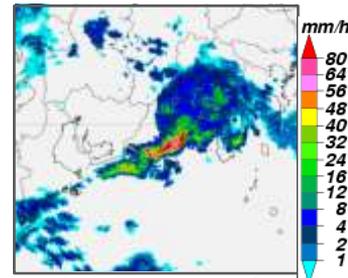
## 1. 気象経過

11日には、日本海に前線を伴った低気圧があつて北東に進んでおり、低気圧に向かって、暖かく湿った気塊が流入していた。浜松(防衛省)では、11日21時上空1500m付近において南の風、風速14m/s、相当温位\*325Kを観測した。温暖前線が不明瞭ながら夜のはじめ頃通過していったが、この際中部南、遠州南の山沿いに発生していた局地的な前線と一体化して停滞した。局地的な前線に向かって、暖かく湿った風が次々と流れ込んだため、前線上に積乱雲が次々発生・発達した。**アメダス菊川牧之原では、11日23時40分までの1時間に110mm(観測史上1位)の猛烈な雨を観測し、菊川市付近に記録的短時間大雨情報を発表した。アメダス掛川でも11日23時10分までの1時間に89mm(観測史上1位)の猛烈な雨を観測した。さらに雨雲は伊豆北へ東進し、アメダス土肥で12日1時10分までの1時間に79mmの非常に激しい雨(観測史上2位)を観測した。**

※相当温位: ある高さの空気塊のエネルギーを同じ条件下(1000hPa気圧面)で比較するため換算したもの。暖候期の高度1500m付近の相当温位の目安としては、330Kを越えると短時間強雨の可能性が高まり、340Kを越えると大規模な災害が発生するような大雨に警戒が必要となってくる。単位は絶対温度(K:ケルビン)



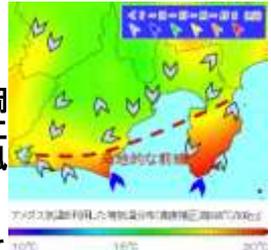
2004年11月11日9時(左図)、21時(右図) 地上天気図



2004年11月11日23時20分 気象レーダー

## 2. 大雨の原因、特徴

暖かく湿った気塊が流入しても積乱雲を発生、発達させる要因がないと大雨とはならない。日本海に低気圧があり、周辺各県では弱い雨にもかかわらず、静岡県のみが大雨となっているのは、冷氣によって内陸に発生した高気圧からの北風と暖かく湿った南寄りの風との間に発生した局地的前線が影響している。温暖前線通過後も山沿いに局地的前線として残り、夜間内陸の冷え込みによる局地的な高気圧の停滞を続け、大雨となるケースは、日本海低気圧の典型的な大雨パターンの一つである。



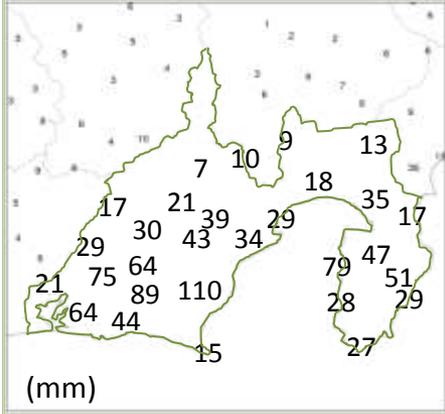
2004年11月11日22時 アメダス気温、風分布図

## 3. 被害概要

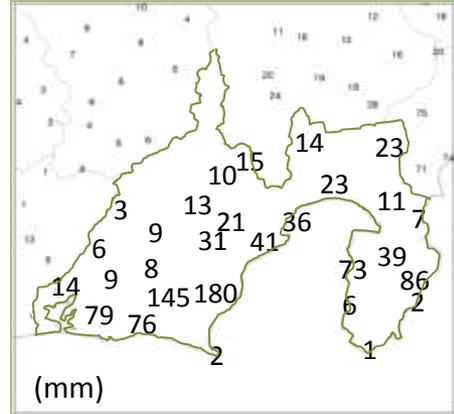
	床上浸水(棟)	床下浸水(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	一部壊損(棟)	死者(人)	重傷者(人)	軽傷者(人)	倒壊(力所)	破損(力所)	停止(力所)	不通(力所)
全県	114	808	0	0	1	1	0	0	76	33	0	38
中部	0	34	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
西部	112	766	0	0	1	1	0	0	-	-	-	-
東部	2	8	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
伊豆	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成16年における災害の状況による

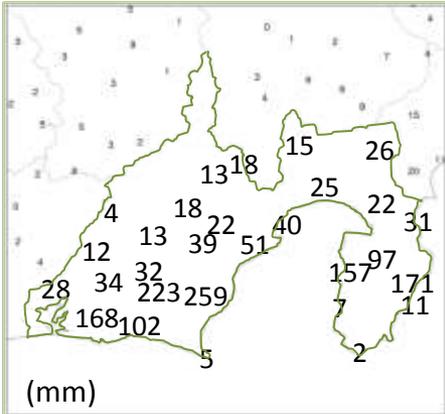
## 4. アメダス雨量分布図



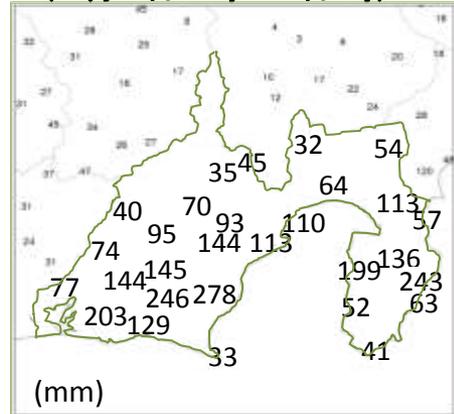
アメダス1時間雨量(正時毎) 11月11日～12日における最大値



アメダス 3時間雨量(正時毎) (11月11日23時～12日1時)

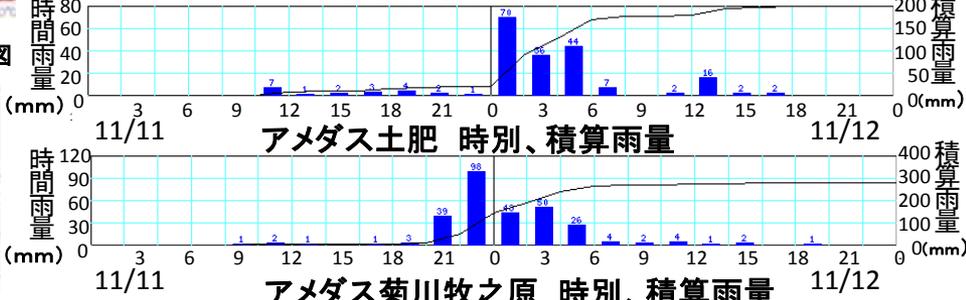


アメダス6時間雨量(正時毎) (11月11日22時～12日3時)



アメダス 2日間雨量 (11月11日～13日)

## 5. アメダス雨量時系列変化図



アメダス土肥 時別、積算雨量

アメダス菊川牧之原 時別、積算雨量

